

< 回転 1 >

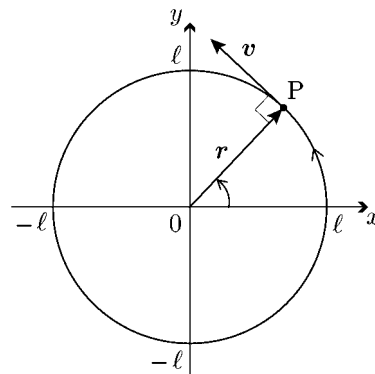
例 1 原点を中心として半径 l の円周上を点 P が動く。点 $(l, 0)$ から出発して 1 秒間に角度 θ (ラジアン) だけ回転するとすれば, t 秒後の P の位置ベクトル $r = (x, y)$ は

$$x = l \cos(\theta t) \quad , \quad y = l \sin(\theta t)$$

で表される。このとき速度ベクトル v は

$$v = \frac{\partial r}{\partial t} = \left(\frac{\partial x}{\partial t}, \frac{\partial y}{\partial t} \right) = (-\theta l \sin(\theta t), \theta l \cos(\theta t)) = (-\theta y, \theta x)$$

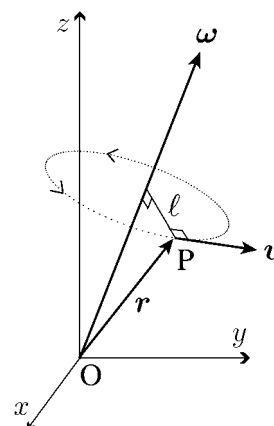
となる。 v の方向は r に垂直で大きさは $|v| = \theta l$ となる。



例 2 空間のベクトル $\omega = (\omega_1, \omega_2, \omega_3)$ は原点 O を始点とするベクトルで, 大きさは θ

$$|\omega| = \sqrt{(\omega_1)^2 + (\omega_2)^2 + (\omega_3)^2} = \theta$$

とする。点 P はベクトル ω を中心軸として右ねじの進む方向に回転しているとする。点 P は軸ベクトル ω から距離 l だけ離れた軌道上を 1 秒間に角度 θ (ラジアン) の速度で等速回転しているとする。このとき点 P の位置ベクトルを r , 速度ベクトルを v とすれば



v の方向 : ω と r に垂直
 v の大きさ : $|v| = \theta l = |\omega| \times l$
 = ω と r の作る平行四辺形の面積

となる。外積の幾何学的意味より

$$v = \omega \times r$$

となることが分かる。

問 $r = (x, y, z)$, $v = \omega \times r = (v_1, v_2, v_3)$ として v の成分を ω の成分 $(\omega_1, \omega_2, \omega_3)$ と r の成分 (x, y, z) で表わせ。

$v_1 =$

$v_2 =$

$v_3 =$

